

## 第5学年国語科学習指導案【改善版】

日時 平成25年10月31日(木) 4校時  
児童 男子18名 女子20名 計38名  
指導者 高橋志保

1 単元名 椋鳩十の作品の世界を物語マップにまとめて交流しよう

2 教材名 『大造じいさんとガン』 椋鳩十(光村図書 5年)

3 単元の指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

・物語の内容や表現に関心をもって読み、自分の考えを広げたり深めたりしようとする。

【読む能力】

・登場人物の相互関係や心情の変化、場面についての描写を叙述と関係付けながら読み取り、自分の考えをまとめることができる。【Cエ】

・文章を読んで考えたことを発表し合い、友達との感じ方の共通点や相違点に気付き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【Cオ】

【言語についての知識・理解・技能】

・色彩語や比喩などの表現の工夫に気付くことができる。【イ(ケ)】

4 単元を貫く言語活動の特徴

物語に描かれている「出来事」、「人物像」、「人物の心情の変化」、「作品のテーマ」、「作者の伝えたいメッセージ」など、観点に沿って読み取り、自分の考えも交えながら「物語マップ」に書きまとめる。この活動を進めるうえで、物語の内容を正確にとらえるだけでなく、物語の面白さや優れた叙述に着目する必要がある。そうすることで、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること【Cエ】」ができると考える。

5 単元について

(1) 児童について

これまでに児童は、「読むこと」の学習として、文学的文章『のどがかわいた』(ウーリー＝オルレブ)で、人物像と、人物同士の関わりに気を付けて読んできた。描かれた登場人物同士の関係を読み取り、それについて、自分自身のことを思い起こしながら感想を書く言語活動を行った。その際、物語から読み取ったことと、それに対する自分自身の感想を明確に分けて書くように取り組んだ。伝記『百年のふるさとを守る』(河田恵昭)では、物語の要素を多く含む文章と筆者による解説の部分とを区別しながら、人物の行動や考え方を読む学習を行った。また、人物の行動や生き方について、自分と照らし合わせて共通点や相違点を明らかにし、共感する点や見習いたい点を中心に感想をまとめる活動に取り組んだ。

これらの学習を通して、登場人物の心情を想像したり、友達と考えを交流したりすることに意欲的に取り組む児童が増えてきた一方で、苦手意識をもち、進んで取り組むことが難しく、教師の支援を必要とする児童も少なくない。また、想像を膨らませるあまり、叙述から離れてしまう児童もいる。

昨年度の標準学力調査を見ても、「登場人物の気持ちを読み取る」力が全国平均に比べて落ちていることが分かった。したがって、登場人物の行動や会話などに着目し、想像豊かに読んでいく経験をさらに積み重ねていく必要がある。本単元で扱う教材『大造じいさんとガン』(椋鳩十)では、登場人物の相互関係や心情の変化、作品のテーマについて、登場人物の行動や会話、情景描写などから読み取り、自分の考えを広げたり深めさせたりしていきたい。

(2) 単元構成と指導に当たって

本教材『大造じいさんとガン』は、ガンの頭領である残雪が仲間のために命がけで戦う姿、傷つきながらも敵から逃げない堂々とした姿と、その残雪と戦う大造じいさんの心情の変化が描かれている。人間と動物という関係を超越するかのようなかかわり合いを通じて、美しいもの、感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿が、緊迫した雰囲気の中で生き生きと描写されている。児童は、大造じいさんの思いや行動に感心し、共感しながら物語を読み進めていこう。したがって、本教材は、登場人物の相互関係や心情の変化、優れた叙述について自分なりにとらえ、考えをまとめる力をつけるために適した教材であるといえる。

第一次では、『大造じいさんとガン』の物語マップを書くという単元のゴールや学習の進め方について確認する。『ごんぎつね』の物語マップをモデルとして提示し、学習意欲を高めることができるようにする。その

マップをもとに、完成させるために必要な読みの観点を確認し、学習の見通しをもてるようにする。また、椋鳩十の他の三作品（『片耳の大シカ、金色の川』、『月の輪グマ』）を紹介し、並行読書に取り組むことで、読書に親しむ態度を育てるとともに、同一作者の作品に共通する特色やテーマ、作者の伝えたいメッセージを味わうことができるようにする。

第二次では、『大造じいさんとガン』を読み、物語マップを書く際に必要な読みの観点に沿って内容を読み取っていく。主な観点は「出来事」、「人物像」、「人物の心情の変化」、「作品のテーマ」である。

第三次では、『大造じいさんとガン』と並行読書として読んできた作品とを比べ、同一作者の作品の共通点、相違点を見つける中で、作者のメッセージをとらえ、自分の考えをさらに深めることができるようにする。また、第二次で文章から読み取ったこと、自分なりに感じたことや考えたことを中心に物語マップを完成させ、交流会を開く。交流会では、完成した物語マップを読み合い、友達との共通点・相違点を探す中で、自分の考えをより広げたり深めたりすることができるようにする。

#### 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語を進んで読み、物語から読み取ったこと、自分なりに感じたことや考えたことを基に、物語マップにまとめようとしている。	・出来事や登場人物の心情、作品のテーマなどを優れた叙述に着目しながら読み、自分の考えをまとめている。〔Cエ〕 ・物語マップを交流する中で、感じたことや考えたことの共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりしている。〔Cオ〕	・心情を表す優れた叙述や情景描写の効果に気づきながら読んでいる。〔イ（ケ）〕

#### 7 単元計画（全9時間）

次時	主な学習活動	指導の手立て	評価
一	1 ・単元のねらいを知り、物語マップを作成するという学習の見通しをもつ。	・『ごんぎつね』の物語マップを提示し、物語マップの書き方や、読みの観点を確認し、学習の見通しをもてるようにする。	関物語マップに書く内容を進んで考え、学習の見通しをもとうとしている。
	2 ・『大造じいさんとガン』を読み、設定やあらすじをとらえ、物語の全体像をつかむ。 〔情報の取り出し〕	・「時」、「出来事（作戦）」、「大造じいさんの行動」、「残雪の行動や様子」の観点に分けてワークシートに整理させる。	読物語の設定を正確に押さえ、ワークシートにまとめている。
	椋鳩十の作品の世界を物語マップにまとめよう		
二	4 《出来事をとらえる》 ・大造じいさんと残雪の戦いについて読み取り、大造じいさんの心情の高まりをとらえる。 【情報の取り出し】 【解釈】	並 行 読 書 ・「つりばり作戦」、「タニシ作戦」、「おとり作戦」の概要をおさえ、大造じいさんの執念を読み取らせる。 ・それぞれの作戦を通して高まる大造じいさんの心情について書きまとめさせる。 ・大造じいさんの人物像を、残雪に対する心情や出来事と結び付けてとらえさせる。 →作戦を繰り返し仕掛けて獲物を捕ろうと執念を燃やす部分や、残雪を見送る結末の部分から、「狩人」として「人」として、どんな人物か想像し、書きまとめさせる。	読作戦の内容と、作戦を重ねるごとに残雪への思いが高まっていく大造じいさんの心情を読み取り、書きまとめている。
	5 《人物像をとらえる》 ・大造じいさんの人物像をとらえる。 【情報の取り出し】 【解釈】 【熟考】		読残雪に対する心情や出来事とかわらせながら大造じいさんの人物像を読み取り、自分の考えを書きまとめている。
	6 本時 《心情の変化をとらえる》 ・残雪をうたなかつた大造じいさんの心情を読み取る。 【情報の取り出し】 【解釈】 【熟考】		読残雪の行動や態度によって変化した大造じいさんの心情を読み取り、それに対する自分の考えを書きまとめている。

	7	《作品のテーマをとらえる》 ・残雪を見送る大造じいさんの心情を読み取り、作品のテーマをまとめる。 【情報の取り出し】 【解釈】【熟考】	・晴れた日を選んで残雪と別れたことや、大造じいさんの残雪への呼びかけから大造じいさんの心情を想像させる。 ・大造じいさんのこれまでの心情の変化を振り返り、自分なりに作品のテーマをとらえさせる。	読 大造じいさんの残雪に対する心情の変化を振り返り、作品の主題について自分の考えを書きまとめている。
三	8	・補助教材『片耳の大シカ』、『金色の川』、『月の輪グマ』を比べ読みし、共通する作者のメッセージについてまとめる。 【情報の取り出し】 【解釈】	・二次での読みの観点を使って『片耳の大シカ』『金色の川』、『月の輪グマ』を選んで読み、『大造じいさんとガン』との共通点と相違点を挙げさせる。その中で椋鳩十が読者に伝えたいメッセージとは何かを考えさせる。	読 二つの作品を比べて読むことで見える作者からの共通のメッセージをとらえ、書きまとめている。
	9 10	・物語マップを完成させ、感想を交流する。 【表現】	・グループ交流の中での意見の練り合いや深まりを、全体の場でも共有し、一人一人の考えをさらに広め深めることができるようにする。	読 友達と交流する中で、自分の読みとの共通点や相違点に気づき、感想をまとめている。

### 8 本時の指導（7/10）

#### （1）本時の目標

残雪の行動や態度によって変化した大造じいさんの心情を読み取り、それに対する自分の考えを書きまとめることができる。

#### （2）本時の展開

	主な学習内容と学習活動	指導上の留意点と評価
導入 7分	1 前時までの学習を想起する。 ○大造じいさんは残雪に対してどう思っていましたか。  2 本時の学習課題をとらえる。 大造じいさんが残雪をうたなかつたのはなぜだろうか。 ○大造じいさんは残雪をうつチャンスはなかつたのですか。 ○大造じいさんはどうして残雪をうたなかつたのでしょうか。	・大造じいさんがこれまでに数々の作戦を仕掛けたものの、残雪に見破られて失敗してしまい、並々ならぬ思いを抱いていることを想起させる。  ・残雪をうつチャンスがあつたが、うたなかつたことを確認する。 ・大造じいさんが残雪に対して強い思いをもっていたにも関わらず、なぜ残雪をうたなかつたのかを考えていくことを確認してから一人学びに入る。
展開 33分	3 学習課題を解決する。 (1) <u>大造じいさんの心情を大きく変えた残雪の姿や行動を探し、全体で確認する。【情報の取り出し】</u>  (2) <u>それを見た時の大造じいさんの心情を一人学ぶ。【情報の取り出し】【解釈】</u>  (3) <u>大造じいさんの心情を全体交流し、残雪をうたなかつた理由を考える。【解釈】</u> ・仲間のために命がけで戦う姿に感動したから。	・残雪がハヤブサと戦う場面、大造じいさんとガンが対峙する場面を中心に読みとっていくことを確認する。  ・最も大造じいさんの心情を変えた残雪の姿、行動を各自一つ選び、それに対する大造じいさんの心情について一人学びさせる。 ・大造じいさんの心情を大造じいさんのつぶやき、セリフのように書きこませる。  ・一人学びでノートに書きこんだことを単に挙げるだけでなく、大造じいさんがどんな気持ち（驚き、戸惑いなど）であつたか、大造じいさ



## 10 指導案改善にあたって

本単元の学習を行い児童の実態から次のように改善を行った。

### ア 単元構成に関わって

- ・第三次において、並行読書として読んできた作品の物語マップを書く際、自力で書くことが難しい児童が多かった。マップを完成させるための時間を十分に保障するため、時数の配当を多くした。

### イ 本時の授業について

- ・研究授業の際は、「残雪がおとりのガンを助けた」場面と、「残雪の大けがをしながらも頭領らしい堂々とした姿に心を打たれる」場面を区切って、心情について一人学びを二回設定したため、時間がかかっただけでなく、場面読みの授業の流れになってしまった。大きく読んできた前時までの学習の展開と異なるため、児童も戸惑ってしまったようだ。したがって、二つの場面を区切らずに一人学びをするように改善した。
- ・一人学びにおいては、①大造じいさんの心情をセリフのように吹き出しに書き、②その時の気持ち（驚き、戸惑い、など）を吹き出しの横に書く、という方法を行った。しかし実際にやってみると、①、②をどう区別して書けばよいか分からなかったようであった。したがって、一人学びでは①を行い、全体交流する中で②の内容に触れていくほうが混乱しないと感じた。もしくは、一人学びに入る前に一文を取り上げて、全体で一度やってみて方法を確認してもよいと思う。